

## 小学校 生活科・総合的な学習の時間 部会

部会長名 真木小学校 校長 中川 真一

実践者名 池尻小学校 教諭 角谷 朋恵

- 1 研究主題 「自己の生き方を考えることができる子どもを育てる総合的な学習」  
～望ましい勤労観・職業観を育てるための職場体験活動を通して～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 現代社会の要請から

社会環境の変化により、精神的・社会的な自立の遅れや人間関係構築の難しさ、自己決定できず、自己肯定感を持たずにいる子どもたちの増加が指摘されている。このようにとどまることなく変化していく社会の中で、子どもたちが希望を持って自立的に自分の未来を切り拓いていくためには、変化を恐れず、変化に対応していく力を態度を育てることが不可欠である。そのような中、平成11年12月、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」において、「キャリア教育を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要があること」と示された。さらに、「キャリア教育の実施に当たっては、家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、各学校ごとに目的を設定し、教育課程に位置づけて計画的に行う必要がある」と提言している。キャリア教育は、学校の教育活動全般を通じて行うことが基本ではあるが、総合的な学習の時間における職場体験学習が中核になる取組であると考えられる。

これらのことから、職場体験活動を通して、働く意味をしっかりと考え、自分自身を見つめ、自己の生き方を考えることのできる子どもを育てることは、大変意義深い。

#### (2) 児童の実態から

校区内には、飲食店や美容室、スーパーマーケットなど、たくさんの事業所がある。そのため、2学年の生活科や3学年の社会科の学習で、地域の様々な職場を見学することを通して、自分たちの生活は地域の人たちに支えられていることや働く人の工夫や努力について調べる学習を行ってきた。また、本校の教育課程には、6学年の総合的な学習の時間において、職場体験学習を位置づけており、毎年、10程度の事業所で職場体験をさせてもらっている。このように恵まれた環境の中、学校と地域が連携を図りながら効果的な学習を位置づけることができている。

本学級の児童は、一学期の「夢に向かって～Part 1～」の学習において、18名の児童全員が将来なりたい職業を明確に持つことができている。それは、スポーツ選手や声優などのように好きなものあこがれから夢を持っている児童が28%、環境や自分の個性を生かせるものからやりがいを感じ、現実的な夢を持っている児童が72%であった。しかし、核家族化や地域での交流が希薄化している中、子どもたちを取り巻く環境はとても厳しく、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルが見つげにくくなっているように思える。また、学校以外での自然体験や社会体験などの体験活動をする機会が少なくなっているため、狭まれた世界でのみ、将来の夢を決定して

いるように見受けられる。このような現状から、自分の希望する職種だけでなく、様々な職種の知識や情報も得ることのできる職場体験学習を通して、自分の思い描く夢とは違う方向性を知り、自分の将来が様々な可能性に満ちていることを感じさせたいと考える。

そこで、「自己の生き方を考えることができる子どもを育てる総合的な学習」とし、副主題を「望ましい勤労観・職業観を育てるための職場体験活動を通して」とした。

### 3 主題の意味

#### (1) 自己の生き方を考えることができるとは

総合的な学習の時間においては、横断的・総合的・探求的な学習を通して、自己の生き方を考えることができるようにすることが大切である。自己の生き方を考えることができるとは、人や社会、自然との関わりにおいて、自らの生活や行動について考えていくことである。自分自身が社会や自然の中に生きる一員として、何をすべきか、そのためにどのようにすべきかなどをしっかりと考えることである。また、自分にとって学ぶことの意味や価値を考えていくことである。学習活動を通して、自分の考えや意見を深めたり有用感を味わったりして学ぶことの意味について自覚することである。さらに、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることである。学習後に達成感や自信を持つことで、自分のよさや可能性に気づき、今後の自分の人生や将来について考えていくことである。これらは、常に自己との関係で見つめ、振り返り、問い続けていこうとすることによってさらに考えるべきことが見出されていくものであるといえる。

#### (2) 望ましい勤労観・職業観を育てるとは

勤労観とは、日常生活での役割の理解や考え方や役割を果たそうとする態度、および役割を果たす意味やその内容についての考え方のことである。職業観とは、職業についての理解や考え方や職業に就こうとする態度、および職業を通して果たす役割の意味やその内容についての考え方のことである。実際に職場で働くという体験を通して働く意味について考え、自分自身を見つめることにより、自己の生き方について考える機会を持つことができる。このような体験を通してこそ、望ましい勤労観・職業観が身に付くとともにさらに、今できることを考え、実践していこうとする意欲を持つキャリア教育の育成にもつながっていくものと考えられる。

### 4 研究の目標

総合的な学習の時間において、職場体験活動を通して、自己の生き方を考えることのできる子どもの育成を図る指導の在り方を究明する。

### 5 研究の仮説

総合的な学習の時間において、以下のような手立てをとれば、望ましい勤労観・職業観を持ち、これからの自己の生き方について考えることのできる子どもに育つであろう。

- (1) 職場体験活動の事前、事中、事後の各段階における指導の在り方を明確にする。  
 (2) 単元を通してグループ学習を行い、他者と協同した学習活動を仕組む。  
 (3) 事後の段階において、職場体験活動の報告の場を設定する。

## 6 研究の計画（授業の計画）

### (1) 単元「夢に向かって～P a r t 2～」

#### (2) 単元の目標及び指導計画

単元	夢に向かって～P a r t 2～	総時数	12時間	時期	10月
単元の目標	<p>○職場体験活動に向けて課題を見出し、将来の夢の実現のために大切なことは何かを追究し、今後の自己の生き方について考える。（問題解決力）</p> <p>○先輩からのアンケートや職場体験活動を通して、自分の考えをまとめ、将来の夢の実現に向けて大切なことを現在の自分と関係付けながら考えることができる。 （学び方・ものの考え方）</p> <p>○職場体験活動を通して、将来の夢の実現に向けてこれから何をすべきかについて考える意欲や態度を身に付けることができる。 （主体的・創造的な態度）</p> <p>○職場体験活動を通して、望ましい勤労観・職業観を持つとともに、現在の自分の生き方を見つめ直し、これからできることは何か考えることができる。 （自己の生き方）</p>				
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(援助・支援)	
目的意識化	1	○職場体験活動について知り、見通しを持つことができる。	・職場体験活動とは何かを知り、単元全体の見通しを持つ。 ・職場体験活動の日程と事業所を知り、希望調査をとる。	・これまで生活科や社会科で体験した職場見学との違いに気付かせる。 ・自分の将来の夢にとらわれず、広い視野で事業所を選んでよいことを知らせる。	
	2	○職場体験活動の準備をし、心構えを持つことができる。	・グループごとに事業所ではどんな仕事をしているか、働く人たちが気を付けている事は何か、学びたいことは何かを話し合い、交流する。	・職種によって仕事内容の違いがあること、反面、職種にとらわれず共通する仕事内容があることに気付かせる。	
	3	○職場体験活動の準備をし、心構えを持つことができる。	・昨年度職場体験学習を終えた中学生の先輩からのアンケート結果をもとに、見通しを持つ。  ・グループごとに職場体験活動のめあてを持つとともに、	・前時のグループごとに考えた内容との重なりとは別に、アンケート結果から新たな発見があることを整理することで、職場体験活動に向けての意欲化を図る。 ・7つ示した職場体験の効果	

		個人のめあてを持つ。	をもとに、何を学びたいのかという具体的なめあてを持たせる。
	4 5	○職場体験活動の準備をし、心構えを持つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日をイメージして、挨拶の練習を行う。</li> <li>・グループで練習をさせ、互いに評価し合う。</li> <li>・練習の成果を校長先生に示し、緊張感を持たせるとともに、評価することで挨拶が人の印象をつくりあげることが体得させる。</li> </ul>
二	1 2	○職場体験活動ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの事業所で責任を持って役割を果たすとともに、働く人の思いや考えについて知る。</li> <li>10月7日(金) <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物病院…3名</li> <li>・スーパー…2名</li> <li>・美容室…2名</li> <li>・喫茶店…2名</li> </ul> </li> <li>10月11日(火) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナフコ…3名</li> <li>・保育所…8名・3名</li> <li>・喫茶店…2名</li> </ul> </li> <li>10月17日(月) <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所…3名</li> <li>・町立図書館…8名</li> </ul> </li> </ul>
三	1 2 3	○職場体験活動を振り返ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験を通して、自分自身の考えにどんな変容があったかを考えさせる。</li> <li>・体験を通して学んだことから、今後の生き方について大切だと思ったことや生かしていきたいことを考えさせる。</li> <li>・色別の付箋紙を準備し、項目別に箇条書きでまとめる。</li> </ul>
目的の内面化	4 5	○報告会を行い、学習のまとめをすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がしたことから思ったこと、考えたこと、また働く人の様子から思ったこと、考えたことをワークシートにまとめる。</li> <li>・個々の振り返りをグループ全体で共有し、報告会に向けて準備をする。</li> <li>・グループごとにポスターを用いて報告会を行う。</li> <li>・自分と比べながら聞くことができるよう視点を持たせる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所にお礼状を書く。</li> <li>・ 本学習を通して学んだことから、今後の生き方について考えを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ モデル文を参考に形式を知らせる。</li> <li>・ これまでファイリングしたワークシートをもとに活動全体を振り返るとともに、卒業文集に取り組み際の参考にするよう促す。</li> </ul>
--	---	---

## 7 指導の実際

### (1) 第一次「目的の意識化を図る」段階において

教師の働きかけ	児童の反応
<p>○昨年度の職場体験活動を参考にして、夏季休業中に受け入れが可能かどうか各事業所を訪問する。</p> <p>○各事業所と連絡を取りながら、日時と希望人数を決める。</p> <p>○交通手段として、町へバス依頼をする。</p> <p>○勤労観についての実態調査を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「夢に向かって～Part 1～」の学習を振り返り、本活動の見通しを持たせる。</li> <li>・ 「働く」ことは何か、また「自分は働いているか」などの実態調査結果から、勤労観と職業観について意味づけを図る。</li> <li>・ 職場体験とは「職場で働くことを通して、職業や仕事を体験したり、働く人々と接したりする学習活動」であることを知らせ、10の事業所の中から、自分が体験したい場所を選ばせる。</li> </ul> <p>○職場体験依頼書を各事業所へ持参する。</p> <p>○事業所からの定員などの要望と児童の希望、また、グループ活動が円滑にいくような編成をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度、6年生が職場体験活動へ行っていたことを思い出す。</li> <li>・ 2年生の生活科、3年生の社会科で職場見学を行ったことを思い出し、職場体験との違いに気付く。</li> <li>・ 委員会活動や当番活動などで誰もが働くことを経験している。これまで勤労観を培ってきたことに気付く。</li> <li>・ 具体的な事業所を知り、将来なりたい職業と重ねながら体験したい場所を選んだ。</li> </ul> <p>★今日の振り返り★</p> <div data-bbox="826 1541 1353 1713" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>パピルスに職場体験所に行けるのでうれいして、12時までにい、1はいい手(云い)として仕事か気なれたとき、アサがいいを感じられるようにしたいです。</p> <p>こわい 働くことの一番の心配がアサです。</p> </div> <p>【資料1】A児の振り返り</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職場グループ内で仕事内容や働く人たちが気を付けていることは何かについて考え、何のために行くのかという目的意識を持たせた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どものお世話、レジ、本の貸し出しなど事業所によって様々な仕事内容がある。しかし、挨拶をしたり助け合ったりすることは、どの事業所でも共通することであることから、</li> </ul>

○池尻中学校に姉兄がいる児童に協力を  
得て手紙を配布し、職場体験についての  
アンケートに答えてもらう。

働くということは責任を持って自分の役割を  
果たすことであり、そのために心得なければ  
いけないことはどの事業所も共通すること  
であることに気付いた。これらのことはまさに、  
学校で学んでいることにつながることである。  
・一つの事業所での仕事内容を詳しく知りた  
いことはもちろん、仕事に対する思いや人  
のつきあい方などについて知ることで、勤  
労観・職業観が育つとともに自分の今後の生  
き方に生かしていけるのではないかという視  
点を持つことができた。

★今日の振り返り★

職場に対する大変さや気をつけていることについて  
自分たちで考え、保育園で何かということがよく  
見直すことができました。

仕事に対して、しっかり見通しが持っていますね。

### 【資料2】B児の振り返り

・先輩たち11名のアンケート結果を表  
にまとめて紹介する。  
・職場体験の効果を7つ提示し、自分  
にとってどんなよさが得られるのか知り、  
班のめあてと個人のめあてを持たせる。

・先輩たちがそれぞれの事業所で体験した  
ことを具体的に知ることができ、職場体験活  
動に向けての意欲が向上した。特に職場体験活  
動前後の気持ちの変化があったという先輩た  
ちの意見にはとても説得力があり、自分の姿  
と重ねて考える姿も見受けられた。

#### 1 職場体験の効果

- 自分 ①働くことの意義や進んで働くこうとする意欲や態度を身に付けることが  
できる。一望ましい職業観
- 自分 ②自分が役立つ存在であることを知ることができる。
- 自分 ③働いている人とのふれあいを通して、社会人としてのマナーや言葉遣い  
などを身に付けることができる。
- 自分 ④学校での学習がなぜ社会で大切なのかを知ることができる。
- 自分 ⑤地域の産業や働く人々の素晴らしさに気付き、郷土に誇りを持つことが  
できる。
- 自分 ⑥保護者に対して、働くことの尊さや感謝の気持ちを持つことができる。  
地域が一体となって子どもたちを育てていくことにより、職場も地域に  
貢献することができる。

・先輩たちのアンケート結果をもとに一つ  
ひとつの効果を感じることができた。また、校  
区内には多くの事業所があり、職場体験活動  
についても長年行われていることから、地域  
の人・こと・ものに自分たちが支えられてい  
るとともに、そのことに感謝するべきである  
ことにも気付くことができた。

### 【資料3】職場体験の効果

○国語科「生活の中の言葉」の学習にお  
いて、時と場に応じた正しい敬語の使い  
方について学ぶ。

○場に適した挨拶ができているかどうか  
評価していただくために、各事業所で働  
く人の役を校長先生に依頼する。

①職場体験をした場所は？ (浄照 保育園 )

②そこで、どんな仕事をしましたか？  
(一緒に遊んだり、ごはんを食べさせたりお感度の準備をしました。)


③仕事を任されて、どうだった？  
(大変なこともあったけど楽しかったです。)

④そこで働いている人の様子はどんなだった？  
(みんな笑顔で働いていました。)


⑤職場体験に行く前と行った後で「仕事」とか「将来」に  
対して、気持ちの変化がありましたか？どんな変化が詳  
しく教えてください。

浄照 保育園に行く前はそこまで大変だと思っていなかったけど  
実際に行ってみると思っていたよりも大変なことがあって  
すごく大変でした。

### 【資料4】先輩のアンケート

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所に到着した際の始めの挨拶と帰る際の終わりの挨拶の時を設定し、場に応じた言葉遣いで挨拶ができるよう促す。</li> <li>・モデルをいくつか示し、良い点に気付かせる。</li> <li>・担任からの評価を得た後、校長室を訪れ、校長先生に評価していただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長室を訪れ、校長先生に挨拶をするという適度な緊張感が児童を戸惑わせたものの、繰り返し行ったことを賞賛していただき自信を持つことができたようだった。</li> </ul>  <p>【写真1】校長室での挨拶練習</p>
---	--

(2) 第二次「目的の具体化を図る」段階において

教師の働きかけ	児童の反応
<p>○前日に各事業所へ最終確認の連絡を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験活動当日、登校後すぐに着替えをし、持ち物とめあての確認をする。</li> <li>・出発時刻がそれぞれ異なるため、グループごとにみんなで送り出し、意欲化を図る。</li> <li>・各事業所を巡回し、児童の様子を遠目で観察し、写真を撮る。</li> </ul> <p>○職場体験活動を終えた事業所には、お礼の電話連絡を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出発前に挨拶の練習を自主的に行っているグループもあった。</li> <li>・活動中は指示を仰ぎながら任された役割を果たそうと努めていた。</li> </ul>  <p>【写真2】職場体験活動の様子</p>

(3) 第三次「目的の内面化を図る」段階において

教師の働きかけ	児童の反応
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がしたことから考えたこと、また働く人の様子から考えたことを表にまとめさせる。</li> <li>・体験前後で変化があったことについて考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの児童も実際に体験したことを通して、大変さを感じていた。また、働く人の様子から相手の立場に立った接し方を学ぶこともできたことから勤労観・職業観に対する考え方に変化が見られた。</li> </ul>

・体験を通して学んだことから、今後の生活に生かしたいことを考えさせる。

・それぞれのワークシートをもとにグループ全体で共有し、色別の付箋紙にまとめさせる。

黄色…したこと・そこから考えたこと  
 桃色…人の様子・そこから考えたこと  
 青色…心の変化・生かしたいこと

①全体のめあて「責任を持って役割を果たそう」「働く人の思いや考えを知ろう」を繰り返そう。

したこと	思ったこと・考えたこと
本の整理、貸し出し返し ・本の整理、貸し出し返し ・本の整理、貸し出し返し	貴重な体験が出来た きつたけど、大変はいい 気持ちはよかった。
働く人の様子	思ったこと・考えたこと
・お話を聞きました。 ・いきなり行 ・えが、あ	・お話を聞きました。 ・いきなり行くのは、あんなに みてくれるなんてありがたい その場へ入り。

②体験に行く前と比べて変化があったこと

・おきくさんのすずのし方  
・本の持ち方、仕事の大変さ  
・働く人の気持ち

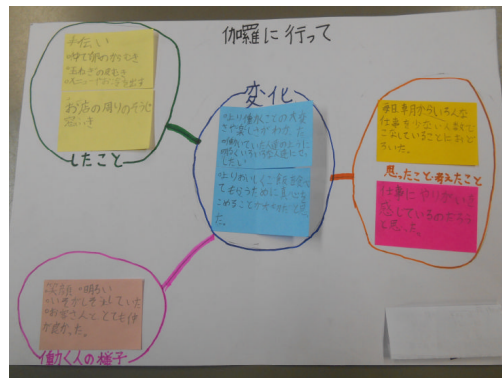
③今後の生活に生かしたいこと

・本をもっと大活躍にあうか。  
・他人への話し方  
・真に、正確。

④将来の夢に際って考えたこと

パベルスにま自分の名前の人、本を置きたい。  
本を大活躍にするのも必要。

### 【A児の振り返り】



【資料6】グループの報告資料

・共通点や相違点に留意して、自分と比べながら発表を聞くよう視点を示す。

・写真を用いて自分がしたことを中心に伝えさせる。

・心の変化や生かしたいことについては、詳しく説明することにより説得力を持たせる。

・教師が書いたお礼状のモデル文を参考にさせ、勤労観・職業観についての考えやこれから生かしていきたいことについて短くまとめるよう促す。

・これから生かしたいこととして、学年目標「時を守り、場を清め、礼をつくす」、すぐに諦めない、コミュニケーションを積極的にとる、真心を持つ、チームワークを生かす、やり遂げることなどが挙げられた。

・働くことは社会に参加することであり、そしてそれは自分自身を向上させることでもあること、そのために自分たちは夢に向かって努力していくことが大切だということをお礼状に書いていた。

・働くことは社会に参加することであり、そしてそれは自分自身を向上させることでもあること、そのために自分たちは夢に向かって努力していくことが大切だということをお礼状に書いていた。





いた。

(3) 事後の段階において、職場体験活動の報告の場を設定する。

ただ報告するのみに終わるのではなく、何のために報告するのかという目的をもとに伝えたいことを焦点化することができた。その際、色付きの付箋紙を用いて、柱ごとに色を変えたり、付箋紙におさまるよう端的にまとめたりするよう促した。そのため、報告会では無駄がなく、何を聞くのかという視点を持つことができた。

## 9 成果と課題

○活動に入る前に教師が事業所と綿密な連絡を取ることがとても大切である。前年度の担任や同和教育担当教員（進路保障の立場から）にも協力をあおぎながら進めていくことができたことは、大変有効であった。

○校区内の事業所の協力なしには本活動は成立しない。そのためにも日頃から地域と学校との連携が欠かせないと感じる。本校では職場体験活動が長く続いていることから、この良好な関係を継続していくこと、そして、子どもたちに地域から育ててもらっているという意識を持たせることもできた。

○活動に見通しを持たせるために、中学生の先輩からのアンケートを実施したことは大変効果的であった。何より、体験をした先輩の話は子どもたちにとって身近なもので、説得力を持たせることもできた。また、協力してくれた先輩たちにも感謝の思いを持つこともできた。

○ただ活動するだけでなく、体験を通して自分が考えたことを体験前と比べることによって、勤労観・職業観に対する変容に自分自身が気付くことができた。

○毎時間ワークシートの終わりに学習の振り返りをし、自己評価を行うことで、その都度自分が何をすべきか、また、自分の考えをさらに深めることにより有用感を味わわせることもできた。

○本学習で自分の可能性やこれからの生き方について考えたことを振り返り、問い続けながら、卒業文集「将来の夢」の学習へと向かわせることができたことも効果的であった。

●子どもたちの実態から、場に応じた挨拶や言葉遣いが身に付いていない。学校内ではもちろん日頃から、社会に出た際の対応力について身に付けていく必要がある。

●今回、台風接近により臨時休校になったため、職場体験活動も変更せざるを得なくなった。2グループが遅れた実施となったため、事後活動に入る時期も大幅に遅れた。

●総合的な学習の時間の特質でもある他教科との関連付けを考えながら、計画的・継続的に取組を行っていく必要がある。

## ◎参考文献

- ・「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」 文部科学省 平成20年
- ・「小学校キャリア教育の手引き〈改訂版〉」 文部科学省 平成23年
- ・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」 文部科学省
- ・「中学校職場体験ガイド」 文部科学省 平成17年